

指定管理者制度導入施設の管理運営実績について(令和4年度)

調査表

施設名	県立農業大学校農業総合研修センター 及び宮崎県農業科学公園
指定管理者	学校法人宮崎総合学院
指定期間	令和3年4月1日から令和8年3月31日(5年間)
県所管部課	農政水産部農村振興局担い手農地対策課

1 施設利用状況

指 標	R4	R3	R2	増減理由等
研修実績(延べ人数)	11,644	8,091	8,406	新型コロナウイルス感染症による県民の行動制限が緩和されたことで、研修実績、農業科学公園入園者数、農業科学館入館者数が増加したと考えられる。研修実績の増加はぶどうの収穫や食育体験などの生涯学習コースの参加人数が増加したことが主な理由である。
研修宿泊者数(延べ人数)	927	1,703	1,346	
農業科学公園入園者数	119,766	93,970	118,704	
農業科学館入館者数	18,560	8,869	9,563	
コメント	行動制限の緩和やイベントの開催により実績は上向きになっている。コロナ渦以前の水準まで実績が回復するように引き続き利用拡大に向けた取組が必要である。			

2 施設収支状況

(単位:千円)

収 入	R4	R3	R2	支 出	R4	R3	R2
指定管理料	69,487	69,487	66,503	人件費	51,717	52,072	49,493
利用料金	736	1,054	1,280	光熱水費	12,517	11,142	10,438
生産物売払収入	25,129	21,995	20,889	事務費	10,737	9,197	8,990
その他収入	42	8	1,745	その他	20,336	20,108	21,437
合 計(①)	95,394	92,544	90,417	合 計(②)	95,307	92,519	90,358
収支差額(①-②)	87	25	59				
コメント	効率的な運用や費用の削減努力により、安定的な運営を行っており、評価できる。						

3 管理運営状況

※下線部分は、令和4年度に新たに取り組んだ内容

事 項	実 施 内 容	
維持管理業務	清 掃	研修センター事務室の日常清掃及び年1回の床面ワックスがけ、農業科学館・管理棟・ふれあい体験館・物産館・フラワーハウスの床面及び窓ガラス清掃、農業科学館雨樋清掃 等
	保守・点検	浴槽水質検査(年3回)、貯湯槽水質検査(年1回)、重油地下貯蔵タンク(年1回)、除草・芝刈り(年6回以上)、高木の枝剪定、ビニールハウス自動開閉装置動作点検(年1回)、環境制御システム動作点検(年1回)、ハウス用加湿機動作確認等(年1回)、ウォーターランド保守管理 等
	警 備	(県立農業大学校による警備)
	修 繕	公園遊具、ハウスビニール張替 等
	備品等管理	農業機械(トラクター、運搬車)部品交換・修理
	安全対策	危機管理マニュアルの整備、消防訓練の実施、土日祝日の公園職員複数勤務体制、公園遊具点検(年1回)、浴室・浴槽等衛生管理マニュアルの整備、新型コロナウイルス感染症感染防止ガイドラインの制定、新型コロナウイルス感染拡大防止のための清掃・消毒の強化
その他	公園全体の植栽管理(芝生、花壇、樹木等)	
企画運営業務	サービス提供体制整備	利用者アンケート、農業総合研修センターの休日利用や農業体験休日受入への対応
	イベント等ソフト面充実	検温、消毒液の設置など新型コロナウイルス感染防止対策の実施、ホームページ・FacebookによるPR、農業科学公園ルピナス通信発行 等
	施設設備等ハード面充実	研修センター等換気装置改修、駐車場区画線等の引き直し、物産館エアコン設置
	その他	—
管理運営体制	緊急連絡網の整備	
コメント	みやざき農業実践塾の運営等に精力的に取り組んでおり、就農者の確保につなげている。また、公園の植栽についても季節ごとに適切に管理がなされている。新型コロナウイルス感染防止のためのガイドラインを制定し、消毒の徹底や利用者への感染防止の呼びかけ等適正に実施している。	

4 利用者満足度状況(利用者満足度調査、苦情・要望対応)

調査等方法	アンケート調査(リカレント研修10講座で実施(回答297人)、宿泊利用者に3回実施(回答12人))	
調査結果、主な苦情・要望内容	その対応結果等	
いつも声をかけていただいていたありがたかった。	今後も利用者が快適に宿泊できるよう施設管理に努める。	
演習がもっとあってよかった。具体的な内容が知りたい。	講師との打合せを通じて、適切な研修内容(質・量・資料)に努める。	

5 総合評価

評価コメント	指定管理通算8年目であり、安定的な運営が行われ、また、農業の普及啓発、新規就農者の育成も精力的に行っている。新型コロナウイルス感染症の対応についても、所管課と連携を密にし、感染状況に応じた施設の開館状況等をHPで迅速に周知するなど利用者目線に立った運営を行っている。
今後の課題と対応	施設や農業用機械等の老朽化が進んでいることから、日常のメンテナンスなど引き続き安全対策を重点的に行う。農業科学館の入館者増加に向けた取組の検討を行う。